



©岡山県観光連盟



OKAYAMA^{No. 11}

岡山市は、中国・四国地方のクロスポイントに位置し、JR新幹線岡山駅、国際線が就航する岡山空港が存在するなどアクセスに優れていながら、緑濃い山並や棚田の原風景、瀬戸内海に流入する河川など、豊かな水と緑を感じることができる。また、国連大学から世界初の「持続可能な開発のための教育(ESD)に関する地域の拠点」(RCE)に認定されている。



岡山県人口
188万人



岡山県GRP
7.8兆円

岡山市人口
72万人

岡山市GRP
3.1兆円



STRENGTHS

岡山市の強み・特徴



地域で取り組む 持続可能な開発の ための教育(ESD)

- 岡山市では、2005年から持続可能な社会の担い手づくりを進めるESD (Education for Sustainable Development)の取り組みを開始。2014年には、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催された。
- 公民館や学校などの地域コミュニティを拠点としてESDを推進する「ESD 岡山モデル」が世界に発信されている。



都市と自然の 共存による 住みやすさの実現

- 岡山市は、都心部、市街地、田園地域、沿岸部、中山間地域など多様性に富んだ地域を有し、自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる「住みやすさ」が魅力の都市である。



SDGs達成に向けた国際会議「RCE第1回世界会議」を岡山コンベンションセンターなどで開催

代表的な国際会議

- G20 岡山保健大臣会合(2019年、約350名)
- 強相関電子系国際会議 (SCES2019) (約900名)
- SDGs達成に向けたRCE第1回世界会議(2017年、約120名)
- 持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(2014年、約2,000名)



STRATEGIES

岡山市のサステナビリティに関する戦略・計画

岡山市のSDGs戦略

岡山市SDGs未来都市計画

- 岡山市では、2018年のSDGs未来都市選定を契機に、「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現を目指し、市民の健康づくりの取り組みが実施されてきた。
- 市民の健康づくりが成果に結びついてきたことを受け、次の段階として、市民が社会で活躍できる環境が整備され、誰もが充実した市民生活を送りながら、将来にわたって住み続けたいと思えるまちの実現が目標とされている。
- その実現に向け、経済・社会・環境面における「住みやすさ」に磨きをかけ、持続的に発展できる、活力と躍動感を創出するまちづくりが推進されている。

2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言

- 脱炭素社会の実現に向けて、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことを2021年に宣言した。

2030年に以下の3つのあるべき姿の実現を目指す。

ビジョン

- 市民の健康を増進(健康寿命の延伸など)
- 誰もが活躍できる社会の実現(高齢者の就労支援、女性活躍・男女共同参画の推進など)
- 誰もが「住みやすさ」を実感できるまちづくり(脱炭素化、交通ネットワークの発展など)

2030年のあるべき姿に向けた優先的なゴール・ターゲット

経済

企業誘致の促進および地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図ることにより、新たな雇用と活力を生み出す産業振興を推進する。

社会

健康活動の習慣化を進め、市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組める環境整備を進めることにより、健康寿命の延伸を図る。

環境

持続可能なエネルギーの推進、温室効果ガスの削減など、低炭素型の環境にやさしいまちづくりを推進する。

地域が一体となって取り組む「岡山ESDプロジェクト」

岡山市では、ESDの推進を目的に「岡山ESDプロジェクト」が実施されている。市と「ESDに関する協定」を締結している岡山大学などのステークホルダーが連携し、参加型の学びの場づくりや、学校・公民館などの地域コミュニティを拠点としたESD活動が推進されている。本活動は2016年に「ユネスコ／日本ESD賞*」を受賞するなど世界的にも高い評価を受けており、その活動拠点である公民館などは海外教育関係者の視察先となっている。

また、岡山コンベンションセンターに開設された「おかやまSDGsプラザ」は岡山におけるSDGsの取り組みを国内外へ発信する場であるとともに、地域住民がSDGsを学ぶ場として活用されている。



岡山大学でのSDGsフォーラム

* 世界各国のESDの取り組みの中で、特に優れているとユネスコ本部が評価した3件/年に与えられる賞

市内の学校におけるESD活動

岡山市では学校教育でのESDの取り組みが推進されており、全市立小中学校の教員を対象としたESD研修などが実施されている。また、市内の約130の小中学校のうち、51校がESDの推進拠点であるユネスコスクールに登録されている。

海外の学校関係者が市内の学校へ視察に訪れることも多く、世界のESDの推進に貢献している。



地域の児童へのSDGsに関する出前授業

岡山の歴史・文化を体験できるユニークベニュー

岡山市には、伝統文化を体験できるユニークベニューが複数あり、特に岡山城と能楽堂ホールtenjin9が海外からの来訪者から好評を得ている。

岡山城の天守閣はイベント会場として利用されており、お殿様やお姫様の着物や、武士の甲冑の無料着付け体験も提供されている。またtenjin9は、能舞台の目付柱の取り外しや仮設舞台の追設を施すことで、多目的ホールとしても利用が可能であり、講演会や展示会・企業の式典など広く一般にも利用されている。

文化遺産がMICEに利用されることで、その価値が国内外に周知され、後世に継承される一助となっている。



能楽堂ホールtenjin9



岡山城での着付け体験

SDGs体感モニターツアーの実施

岡山市では、県内の都市と連携したSDGs体感ツアーの造成により、SDGs達成に向けた取り組みの見える化が進められているとともに、地方創生に向けたSDGsの裾野拡大および観光振興が推進されている。

具体的には、食品廃棄物を原料とするバイオガス発電施設や、企業・商店から預かった食料品・日用品を生活困窮者へ渡すコミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）など、幅広くSDGsを体感できるモニターツアーが造成・実施されている。

今後は、本ツアーを継続的に実施し、外国語対応なども行うことで、訪日外国人にも体験してもらえるコンテンツとして整備することが計画されている。



GREENable HIRUZEN



漁業体験

ムスリムにやさしい観光地の整備

岡山市を含む県内3自治体と民間団体などにより「岡山型ヘルスツーリズム連携協議会」が設立され、訪日外国人の受け入れ体制が強化されている。

その一環として、ムスリム観光客の増加を見込んだハラル対応の取り組みが進められており、ムスリムへの対応が可能な宿泊施設や飲食店に対して独自の認証を行う「ピーチマーク制度」の制定や、ムスリムへの対応マニュアル「おかやまムスリムおもてなしハンドブック」の作成が行われている。

これらの取り組みにより、岡山でMICEを開催する際にはムスリムを含む多様な参加者の受け入れが可能となっている。



ピーチマーク



ムスリム対応可能な農家民泊

岡山の特産品を学び・味わえるぶどう研究所

果樹王国とも称される岡山県では、恵まれた気候風土を活かし、古くからぶどうの生産が盛んであり、新しい品種改良が積極的に行われている。

市内の林ぶどう研究所では、岡山ならではのぶどうが開発・研究されており、ぶどう狩りだけでなく、ぶどうに関するレクチャーの受講や、学びながら100種類のぶどうの収穫および食べ比べの体験が可能である。

今後は国際会議のエクスカージョンや、インセンティブツアーに対応するために、受け入れ体制の整備と海外への魅力発信の強化を行い、地元の特産品の継承を図っていく。



ぶどう栽培の様子



ぶどうに関するレクチャー

牡蠣の殻を有効活用した地域循環型農産物の提供

JAグループ岡山では、瀬戸内海産の牡蠣のかきがらを肥料・飼料として活用することで農畜産物（里海農畜産物）を育てる「瀬戸内かきがらアグリ事業」が実施されている。

本事業で生産された農畜産物は、「購入して食べる」だけで、瀬戸内海や岡山の自然・農業の保護に繋がるという新たな価値を提供している。本取り組みは、SDGsに寄与するとして国内で高い評価を受け、農林水産省が開催する「第9回ディスカバー農山漁村の宝アワード」の優秀賞など、複数の賞を受賞している。



里海米



里海野菜（茄子）

市内の代表的なホテルにおけるサステナビリティの取り組み

ホテルグランヴィア岡山では、フードシェアリングサービスによるフードロス削減が実施されている。2021年よりホテルから排出された食品廃棄物（年間約47t）は、バイオマス発電所に提供され、クリーン発電に寄与している。

ANAクラウンプラザホテル岡山では、脱プラスチック化を推進するためにFSC認証*を受けた木製カードキーが導入されている。また、地元の障害者施設や高等支援学校と連携したイベントの開催、インターンの受け入れなどにより、地域のダイバーシティ&インクルージョンに貢献している。



© バイオディーゼル
岡山株式会社



FSC認証を受けた
木製カードキー

* ESGの観点から管理された森林からの製品であることを示す認証